

## 保育の喜び

4月28日(木)、4月生まれの子の誕生会を開き、その後に「こどもの日の集い」を行いました。

遊戯室には、子どもたちが何日もかけて作ったこいのぼりが飾ってあります。みんなでダンスを踊り、その後に、先生方がパネルシアターで「こいのぼり」のお話をしました。「登竜門」という言葉のもとになったお話です。

「日照りや洪水の多い川に暮らしているフナやアユやカニ、そしてコイたちが、ある日、サンショウウオからこんなお話を教えられます。『この川をずーっと、ずーっとさかのぼっていくと、龍門というところがあってな、そこには大きな滝があるそうじゃ。その滝を登ったものには、大きな力が授けられるのじゃ・・・』。それを聞いた魚たちは、みんなでその龍門の滝を目指して川を上り始めます。しかし、川の流れはだんだん速くなります。川幅が狭くなり急流になると、押し戻されてしまいます。途中であきらめてしまうものもいます。アユとナマズとコイは、なんとか龍門にたどり着きます。しかし大量の水が落ちる滝をアユとナマズは登ることができません。コイも何度も押し戻されますが、あきらめずに挑戦して、ついに滝を登ることができました。滝を登り切ったコイは、とうとう龍になりました。そして日照りも大水もなくなりました。』

このお話を先生方が役割を決めて、パネルの上で絵を動かしながら話していきます。ですからお話しているのが先生方だということはすぐにわかります。全部仕掛けは、子どもたちから見えています。そして年長組の子どもたちは去年も同じ話を聞いています。それなのに子どもたちはきちんと膝を抱かえて、まっすぐにパネルの方を見て、真剣に話を聞いています。お話の世界にまっすぐに入っています。子どもたちのこういう素直な姿を見ると、本当に胸が熱くなってきます。こんなに真剣に話を聞いてもらえることって、そんなにはないような気がします。

そして、集いの最後には、小さな袋に入ったちっちゃな魚の形をしたお菓子をみんなで食べまし



た。どの子もニコニコして、一つひとつ大事に食べています。あんな笑顔を見たら、大人は誰だって嬉しくなってしまう。子どもたちの笑顔にはそういう力があります。

子どもたちのそばにいと、わたしたち大人が子どもたちから教えられたり、力をもらったりすることがたくさんあります。そういう保育の喜びを、PTA活動や引率のボランティアなどを通して、たくさんの皆様と共有できたらいいなと思っています。